

家族みんなで読みましょう。

清元院だより

第5号

清元院本堂の天井絵
「龍溪図」作者：玉雲斎

本堂の天井を見上げてみてください。
一匹の龍がいます。現在の本堂ができた
180年ほど前の江戸時代後期に描か
れたものです。墨一色の水墨画で、右下
には「玉雲斎」（ぎよくうんさい）作の
「龍溪図」と記されています。本堂の天
井に龍の図が描かれるのは、本堂は住職
が仏に代わって仏法を説き示す場とし
てお寺の中で最も重要な場所、龍はそ
こを守護する役割を果たすからです。ま
た、龍が雲を呼び雨を降らすといわれ
ることから、本堂に集まった人々に、仏法
の雨（法雨）が降り注ぎますようにとの
願いを込めて描かれています。

● 誌上法話・お彼岸の作法

● お寺アンケート結果

● おてらニュース

■ 禅のついで 160名

■ 小学生「おてらでしゅぎょう」

■ 戦没者慰霊祭 50年ぶり！

■ 「お寺ヨガ」

■ 永代供養墓見学会（3月19日）

発行：曹洞宗大梁山清元院 住職 井上英之
佛歴2560年 平成29年3月12日

「同事」の心

大本山永平寺をお開きになった道元禪師様の教えに「同事」があります。相手と事を同じくする。つまり相手と行いや心を同じくして、苦しみや悲しみ・願いを受け入れ、寄り添い支え合って共に生きていきましょう、という教えです。



私が中学校教師をしていたころの話です。生徒による問題行動がたくさん起こり、学校が「荒れ」て大変な時期がありました。私たち教師は「ダメなものだめ!」「悪いことは絶対に許さない!」と厳しい態度で生徒を指導しました。しかし5年経っても一向に荒れは収まるどころか、ひどくなるばかりでした。

そんなある日、私は生徒指導で有名な先生に相談する機会を得ました。事情を話すとその先生はこうおっしゃいました。「井上先生、まず生徒を受け入れてはどうですか。頭が金髪でも授業に出て手を挙げて発表したらそれでよいではありませんか。問題行動には必ず原因があります。先生方全員でその原因を見つけて、生徒を支えることに力を注ぐべきではありませんか。」と……。次の日から、先生全員で生徒に寄り添う指導に180度の方向転換をしました。するとその7ヵ月後には、荒れていたことが嘘だったかのように、落ち着いた学校に生まれ変わったのです。

私は、身をもって心に寄り添う、「同事」の生き方に気づかせていただきました。それ以来、微力ながら悲しみや苦しみを抱える方々に寄り添い、安心して前を向いて生きていくお手伝いができるように心掛けています。2500年前に、生涯を「同事」の行いに捧げられた実在のお釈迦さまのように……。

お彼岸 の作法

お墓にもお寺にも、お参りしましょう。

彼岸の中日に、お寺参りされた方に…

先祖供養をおつとめさせていただきます。

■ **3月20日（月）春分の日** 午前8時～午後4時

■ 清元院 本堂にて（1軒5分程度です）

■ その場で各家ご先祖供養の経木塔婆を書き読経して供養致します。

■ お気持ちを少し、賽銭箱にお入れください。（少額で構いません。）

* 秋彼岸にも、多くの供養希望があり大忙しでした。お参りいただいた皆様、ありがとうございました。

「お寺アンケート」実施結果の報告

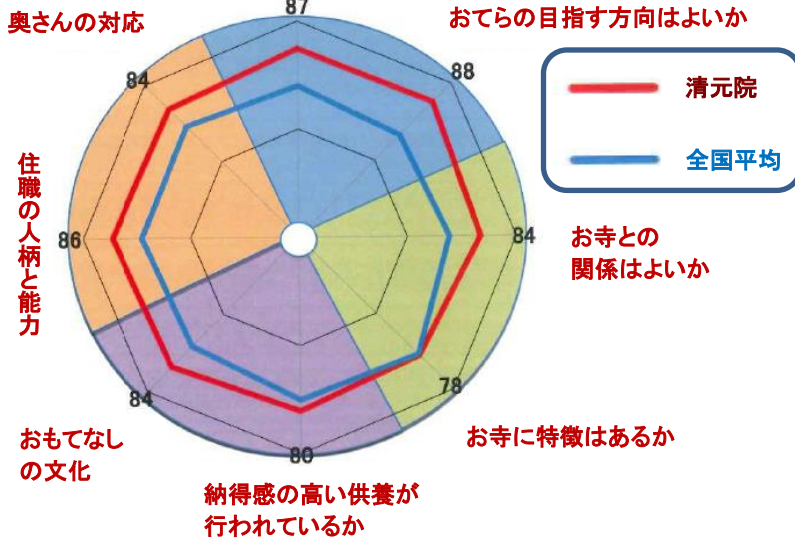
さてこの度、今後の清元院の発展に役立てることを目的として住職が「お寺アンケート」を実施しました。皆様へのアンケートを通じ、忌憚ないご意見を頂戴することで、清元院として今後必要な取り組みを考える機会とさせていただくためです。この取り組みによって、皆様と良いご縁を結ばせていただければと思います。この結果や皆様のご意見を参考にして、今後も清元院の護持発展に尽くす所存です。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

1、実施日 平成 28 年 8 月

2、対象

檀家役員	檀家	檀家外住民	出入り業者	他寺院	寺の奥さん	合計
4	7	3	2	2	2	20人

3、結果① どんなお寺でありたいか



- ◎ どの項目も、かなり全国平均を上回っている。特に「開かれたお寺」を目指す現在の取り組みへの理解や、訪れた方への対応の満足度は高い。
- 「供養の心が伝わる葬儀・法事」を目指しているが、さらに改善しお檀家の納得感が高まる法要にしていこう。
- △ お寺に際立った特徴がなく普通のお寺という印象。今後、友人や知人に対して清元院をすすめたい、またお檀家が清元院を自慢したくなるようなお寺づくりが求められる。

4、結果② アンケートの声

- ・ 先代住職とは同世代であったが、亡くなられた今、現住職とのかかわりの中でお寺の支えを築いていきたい。(檀家)
- ・ 清元院の目指す方向性は十分に伝わっている。現在の住職は着任を機会にいろいろな方法で改善を試みておられ、便りや法話がありがたい。今後の成果に期待したい。(檀家役員)
- ・ お便り、部落放送、Facebook、坐禅会、写経写仏の会など、以前はしておられなかった取り組みをしておられるようで檀家でない私たちにも伝わってくる。(檀家外地域住民)
- ・ 地域に根差した寺院になるには宣伝が過ぎてもいけない。寺院としての役割を日々きちんとすることで、自然と心の寺になるでしょう。(檀家)
- ・ 前向きで開放的な取り組みで素晴らしい。ただ変化を急ぎすぎると、年配の方々に理解が得られない可能性がある。状況をみて効果を検証しながらやるのがよい。(檀家外地域住民)
- ・ 今の世代は寺院とのつながりが強いが、次の代とのつながりが必要だと思います。強く言えば子どもの頃からのつながりが必要だと思います。(出入り業者)
- ・ 住職として未熟な面もあるが、一生懸命努力されていると思う。(他寺院)
- ・ 仏教の意義と価値は認めるが、特に過疎地での「お寺」は仏教だけでなく地域住民の「心のふるさと」として、人の一生を最初から最後まで面倒をみるセンターであってほしい。

おてらニュース

●「禅の集い」160名の参禅

10月6日に清元院を会場に開催された「禅の集い」に鳥取県中部から約160名が参加されました。清元院からは27名と大勢の方に参加していただきました。午前は坐禅・法話、昼食も修行として黙って食べます。午後は坐禅・講演と皆さん充実した一日を過ごしていただきました。

【参加者の声】（川上悦子さん）

十月に清元院で行われた「禅の集い」に参加させていただきました。

法話の中で「坐禅とは、文字が示すとおり、土の上に人が二人坐る。自分自身の中の二人が呼吸だけを意識して、ただ坐るといふ単純さを示している。」と聞き、とても納得しました。でも、いざ坐ってみるとあぐらのかけない私は、体の重心がとれなくて足のことばかり気になっていました。

食事の時は、話をしないで静かに食べる修行でした。「食事は楽しく」とは真逆ことだ・・・と思いがら食べていましたが、食べているうちに、単純に食材そのものを味わっている自分にふと気づき、少し驚きました。

いろいろと自身の発見があった一日になりました。



●船上小学校一年生 「おてらでしゅぎよう」

11月17日に船上小学校の一年生20人が修行にやってきました。お経・坐禅・紙芝居・掃除・お茶の作法などみっちり修行しました。どの子も真剣で感心しました。家に帰ってからの暮らしに役立つことを願っています。

●「戦没者慰霊祭」(8月15日) 以西地区で50年ぶりに復活！

以西地区では戦後、遺族会を中心に戦没者慰霊法要を行ってきましたが、赤碕町4地区での合同法要に移行し、琴浦町になってからは行われなくなりました。そこで遺族会が慰霊祭復活を発願し、このたび清元院と合同で以西地区慰霊祭を約40年ぶりに開催することになりました。激戦地慰霊の旅の報告 正午には忠魂碑前で黙とう、位牌堂から英霊位牌を下し供養し菊を献花しました。



♥「お寺ヨガ」やっています！

一日がんばったごほうびに、お寺の穏やかな空気の中で、心とからだをゆったりとほぐしませんか？

▼毎月第3水曜日 19時半〜21時

※3月は都合により3月24日（金）

▼参加費 お1人 一〇〇〇円

※申し込みは不要です。

▼会場 清元院本堂

▼講師 ヨガハピネス ボディケア

田村真由美さん



●永代供養墓「見学会」

■3月19日（日） 13時半〜

■内容

- ・永代供養墓内部見学
- ・永代供養の仕組み説明
- ・なんでも相談

※どうぞお気軽に
おいでください。



【住職のひとり言】清元院だよりを1回とばしてしまいました。年末に出す予定だったぶんです。昨年末はお葬式が相次ぎ、手が回りませんでした。私の段取りが悪いのかもしれませんが、お葬式には心を込めて全力投球するものですから・・・。言い訳です <(_ _)>